三重厚生連 鈴鹿厚生病院
第9号
2007.01.01
発行／三重県厚生連鈴鹿厚生病院
編集／TCK 名古屋
所在地／三重県鈴鹿市岸岡町589-2
TEL／059-382-1401
ホームページ／http://www.miekosei.or.jp/skh/

ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さまのお役に立ちたい情報誌

院内百科 vol 2

サービス向上接遇委員会

患者さまの信頼感と好感をもたれる病院作りを目標に掲げる中で、医療機器や設備投資と同様に、患者さまの立場での看護サービスの提供が必要です。その一環と致しまして、各棟に配置されたご意見箱の回収や回答をはじめ年度ごとにアンケート調査を施行し、改善案の検討および提示を実施しています。

また、「挨拶・笑顔・言葉遣い」を基本にキャッチフレーズを掲示し、そのテーマにそってサービス接遇委員による棟内ラウンドでの項目チェックを行い、表面上だけではなく心の意識改革を各自で持ち、看護サービス向上を図りたく取り組んでいます。

●外来診療担当医表（鈴鹿厚生病院）

		月	火	水	木	金
午前	初診	高山	中瀬	小野	野村	川喜田
	再診	中瀬	川喜田	川喜田	西浦	
	再診		山本		中瀬	
午後	初診	中澤	宇野	林	西村	山本
	再診	小野	西浦		高山	西村
	再診					

編集後記

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。今号は「機能評価について」や「第1回演芸会」「第18回病院祭」などの模様をお伝えしました。さて、広報委員スタッフは「Live With すずか」の名のとおり、皆さまと一緒に創っていきたいと考えています。本誌へのご感想や、こうしたことを取上げてほしいなどのご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

理念 ささえあい、ともに生きる

基本方針

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
- 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
- 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
- 地域におけるメンタルヘルスに積極的に取り組みます。
- 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みます。

「Live Withすずか」は、当院の理念である“ささえあい、ともに生きる”からネーミングしたものです。
今後も、病院の紹介・精神科疾患への理解・メンタルヘルスなどの情報を発信してまいります。

TEL・059-382-1401（代表）　FAX・059-382-1402　Eメール・info@skh.miekosei.or.jp

あけましておめでとうございます。

新年にあたり、ご挨拶を申し上げます。

昨年は（財）日本医療機能評価機構が実施している「病院機能評価」の認定を取得いたしました。

三重県厚生連
鈴鹿厚生病院
院長
西浦 眞琴

一日も早い社会参加をめざして。

近年、医療を取り巻く環境も厳しく、病院の質を問われる時代となっております。当院は昨年、第三者による病院機能評価を受審し、まさに医療の質・病院の質が評価され認定を受けました。これまで全職員が一体となり充実した質の高い医療を提供するという願いが結実した想いです。今後も引き続き患者さまのための良質な医療を提供してまいります。

昨年4月より障害者自立支援法が施行され、身体・知的ともに障害者の相互乗り入れが可能となりさらに社会参加の枠も広がってまいりました。当院は、患者さまが長期にわたり入院生活を送ることのないよう、現状よりさらに充実した包括的で質の高い医療を提供することをめざし、早期退院へ繋げられるよう日々努めております。入院患者さまの退院後や外来患者さまの一日も早い社会参加をめざし、本格的な精神医療が提供できるよう日々邁進してまいります。

地域ニーズに応えて。

精神神経科疾患の原因はさまざまです。昨年は、残念なことにいじめによる自殺者が急増し社会問題となりました。またうつ病も増加傾向をたどっています。当院では、こうした背景から職場や地域でのメンタルヘルス活動が重要と考え、公開講座などを行ない地域精神医療ニーズに応えられるよう努めてまいります。さらに病院機能の質の向上と良質な医療の提供を実践するため、院内勉強会や院外研修に積極的に参加し、精神医療の向上と地域メンタルヘルス活動をより効果的なものとできるよう職員一同研鑽し続けてまいります。これからも地域精神医療のために私たちができる総てのことを実践してまいります。

●病院機能評価とは、●

第三者機関である（財）日本医療機能評価機構が、国民の医療に対する信頼を揺るぎないものとし、その質の一層の向上を図ることを目的として実施しているもので、病院の各種機能について客観的にチェックを行い、全ての評価項目について一定水準以上にあると認められた場合に認定証が発行されるという制度です。審査では、「病院組織の運営と地域における役割」、「患者の権利と安全の確保」、「療養環境と患者サービス」、「診療の質の確保」、「看護の適切な提供」、「病院運営管理の合理性」、「精神科に特有な病院機能」の7つの領域で、のべ600項目以上に及ぶチェックを受け、認定を取得することができました。当院では、今回の認定取得に満足することなく、今後とも職員一丸となって「信頼される質の高い医療の提供」を目指し、より一層の向上に努める所存です。

心の健康セミナー　誌面版

毎号連載！

心の健康セミナー誌面版は皆さまに精神科病院や病気などをテーマに沿って毎号連載し解説していくコーナーです。

テーマ　地域医療センターとは、

地域医療センターのスタッフ

地域医療センターは、総合的な支援システムの確保に向け、地域住民の精神的健康の保持増進を図ると共に、地域医療福祉の充実と連携の強化を図り、障害を抱える方々が安心して地域で生活できるような支援を行っております。

どんな支援をしてるの？

①療養中の心理的・社会的問題の解決

療養中の心理的・社会的問題について、社会福祉の視点から相談に応じています。必要に応じて福祉制度や社会資源の情報提供を行い、活用することで解決を目指していきます。

②関係機関との連絡調整

地域の保健医療機関、福祉関係機関、市町村との連携を密にし、地域生活を支援します。

③経済問題の解決、調整、援助

入院費のお支払いのご相談やその他の経済的なご相談にも応じています。

④退院援助

退院後の生活支援についてのご相談や施設入所などのご相談にも応じています。

上記以外にもご本人やご家族の方々は、病気のこと、生活のこと、将来のことなど様々な悩みや不安を抱えてみえることと思います。地域の中には、相談できる機関がいくつもあります。今回は、地域の中の相談窓口についてご紹介します。

◆市町村　障害福祉担当課

市町村役場には精神保健福祉担当課があり、地域の相談窓口となっています。
またホームヘルプサービスなどの在宅支援サービスや障害者手帳の申請窓口でもあります。

◆保健所　保健福祉事務所

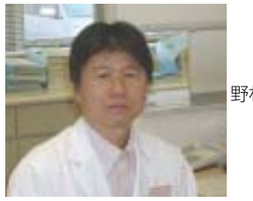
保健所にも精神保健福祉担当の相談窓口があります。
地域によっては、デイケア活動などもされているところもあります。

地域生活支援センター

地域で生活する当事者の方の最も身近な相談窓口となっています。
地域の社会資源を上手に使い、生活をしやすくしていくためにもお気軽にご相談下さい。

診察室から　薬の減量について 脳みそにばれないように減らしましょう

50歳代の女性。うつ病の診断で治療を開始して約1年が経過。症状は消失し、安定した状態となっていました。



野村　泉医師

医師：こんにちは、最近の調子はいかがですか？

女性：変化なくいい状態が続いています。よく眠れるし、食事も美味しくいただいています。何もできないまま、苛々と自分を責めてばかりだった以前の自分が嘘のようです。気分もすっきりしています。

医師：良かったですね。

女性：病気でやめてしまった絵画教室を、来月から再開することにしました。

医師：それは、良かったですね。

女性：はい、娘も「表情が明るくなった」と喜んでくれています。

医師：嬉しいですね。

女性：実はその娘が「もう薬を止めたらどうか」と言うのです。夫は「薬は絶対に止めてはいけない」と言うし、どうしたらいいでしょうか。

医師：ご自分ではどう思われますか？

女性：はい、薬を急に止めるのは少し不安です。かといって、いつまでも飲み続けなくてはならないというのも、正直なところ嫌だなと感じています。

医師：よく分かります。一般論を申しますと、内服を急に中断することは、脳内の神経細胞の調和を乱してしまう恐れがあります。薬によって支えられていたバランスが乱れてしまい、一時的に調子を崩したり、病気の再発をもたらす場合もあります。

女性：薬を減らすと、再発するのですか？

医師：その可能性はゼロとはいえません。初発のうつ病の場合、症状がなくなってから半年は内服を続けたほうがよいとされています。Aさんの場合、長く安定しているので、減薬にトライする価値はあると思います。脳の調和を乱さないように、心の調子をみながら、少しずつ薬を減らしていき、必要最低限の内服量を確かめてみましょう。上手く行けば薬を止められるし、途中で調子が怪しくなったら、その手前の投与量に戻しましょう。少しずつ、陣地を進めるような気持ちで、焦らずに取り組んでいきましょう。

女性：分かりました。何が何でも減らさなければ、というような考えは禁物ですね。

主治医から

薬の急な中断は、症状に悪影響をもたらすだけでなく、思わぬ副作用をもたらす場合もありお勧めできません。治療者と相談しながら、無理なく減量していきましょう。また、再発を予防する目的で、少量の薬を飲み続ける方法もあります。処方の目的を理解して、上手に薬を利用してください。

スマイリー・バトンリレー　vol 9

外来のスタッフ

外来

外来は、まさしく病院の顔に位置する部分です。以前の外来患者数40～50人の時代とは比較にならないほどの患者さまが来られます（1日150～200人の外来患者数です）。精神科の診察は、患者さまの話をじっくりと聴き、きちんと理解しようと患者さまを診ます。そのため診察の待ち時間が長くなることもありますが、「厚生病院に来ると安心できる」と言ってもらえるように、笑顔でこころのこもった対応が出来るように、3人で力を合わせて頑張っています。

ほっとニュース

優秀論文に選ばれました。

私達は平成18年5月に長崎で開催された、日本精神科看護学会で看護研究を発表してきました。その研究が優秀論文に選ばれ、雑誌『精神科看護（12月号）』に掲載されました。これも研究にご協力頂いた皆さまのお陰だと、感謝しております。

当院では毎年、看護研究に取り組んでおります。看護の発展のため、今後とも皆さまに看護研究へのご理解とご協力を頂きますよう、よろしくお願いします。　　玉井沙弥香　阿部清美

第1回演芸会を開催しました。

演芸会ハーモニカ演奏の模様

昨年までは、65歳以上の患者さまを中心に「敬老会」を半日のみのレクリェーション（以下レク）として行っておりました。その延長線上の合同レクとしまして、1人でも多くの患者さまに楽しんでいただこうと思い、年齢枠を取払い「演芸会」への名称を変更し1日を通して11月16日（木）第1回目を開催いたしました。午前の部としては、外部からハーモニカ教室の方々がボランティアでご参加下さり、懐かしい音色を奏でていただきました。午後の部は凝った衣装やセットのダンスや劇・バンド演奏・よさこい総踊り等多数の職員の協力もあり、盛りだくさんの内容で大盛況でした。来年度も、反省点を踏まえた上で、皆で集えるレクの1つになればと考えます。

職員によるダンス模様

第18回病院祭を開催しました。

10月14日に第18回病院祭が開催されました。「共に歩もう」をテーマに「新しい風を感じて」誰もが参加できる、参加型の祭りにしてみました。

地域の自治会をはじめ・社協・学校・保育園・一般企業・農協などに呼びかけまた近隣の大学教授に特別講演を依頼しました。内容は、テーマに合わせた特別講演をはじめ、患者さまの作品展示・病院の歴史パネル展示。そして誰もが参加できる体験コーナー・マンボウの解体・整体師による足つぼマッサージ・職員によるよさこい踊り・亀レースなど楽しいイベントがいっぱいの祭りになりました。今回は、天候にも恵まれ、千人近い大勢の方々と触れ合うことが出来ました。地域の皆さま方の温かいご理解とご支援によりここまで盛大に出来たことを関係者一同感謝し次回につなげていきたいと思っております。

病院祭の様子